

PED対策の再徹底をお願いします。

★豚流行性下痢（PED）は、いまだ全国で発生しています。

特に愛知県では平成27年9月以降13件発生しており、その多くが再発農場です。平成28年1月31日現在、13件のうち沈静化しているのは1件のみです。

愛知県のPED発生状況3（H27.9～）

例数	農場所在地	発生日 (遺伝子検査陽性)	飼養頭数	発症頭数 (通報時)	死亡頭数	平成26年2月からの情報	
						例数	備考
1	美浜町	H27. 9. 14	3, 600	哺乳豚約10頭	約20頭	88	77例目と同一農場
2	田原市	H27. 10. 5	1, 000	肥育豚約40頭	なし	89	83例目と同一農場
3	田原市	H27. 10. 7	2, 700	肥育豚 5頭	約30頭	90	19例目と同一農場
4	田原市	H27. 10. 16	1, 400	肥育豚約100頭	約140頭	91	74例目と同一農場
5	田原市	H27. 10. 16	1, 600	肥育豚約240頭	なし	92	68例目と同一農場
6	田原市	H27. 10. 20	1, 500	肥育豚約70頭	約10頭	93	64例目と同一農場
7	田原市	H27. 10. 29	2, 400	肥育豚約50頭	約200頭	94	67例目と同一農場
8	田原市	H27. 11. 4	2, 200	肥育豚約20頭	なし	95	15例目と同一農場
9	田原市	H27. 11. 4	3, 100	繁殖豚1頭 哺乳豚約30頭	約160頭	96	70例目と同一農場
10	田原市	H27. 11. 5	1, 900	肥育豚約50頭	なし	97	66例目と同一農場
11	田原市	H27. 12. 2	1, 600	哺乳豚約20頭	約30頭	98	21例目と同一農場
12	田原市	H28. 1. 7	2, 200	哺乳豚6頭	1頭	99	14例目と同一農場
13	田原市	H28. 1. 25	2, 100	繁殖豚約20頭 哺乳豚約20頭	なし	100	—
合計			27, 300	682	591	発生実農場数：65農場	

(出典) 愛知県「豚流行性下痢（PED）の発生について」

★今一度、飼養衛生管理のチェックをお願いします。

★早期通報をお願いしています。

以下の症状が見られた場合は、発症豚の出荷・移動を自粛し直ちに家畜保健衛生所へご連絡ください。

- ①複数の繁殖豚の分娩した哺乳豚で、半数以上が水様性下痢・嘔吐・死亡した場合
- ②哺乳豚1頭以上が水様性下痢・嘔吐・死亡し、半日以内に他の哺乳豚に同一症状が拡大した場合
- ③複数の繁殖豚・肥育豚（離乳豚も含む）が、食欲不振・下痢（軟便～水様性）・嘔吐を呈した場合

★本病の対策

PED防疫マニュアル(H26.10月版 P6)を参照ください。

※農林水産省HPにPDFファイルが掲載されています。

日頃からの飼養衛生管理の徹底

糞便中のウイルスにより経口感染します。

感染豚の導入、汚染された人、車両、物品、野生動物によって病原体が運ばれると考えられています。

(PEDウイルスは環境中で28日以上、感染能を有していたとする報告があります。)

ワクチンの適切な使用

ワクチンの確実な接種は発症を完全に抑えるものではありませんが、哺乳豚の損耗による損失を低減させます。

(感染実験により昨年、本年の流行株に有効であることが証明されています。)

妊娠中の母豚に2回接種することで、分娩後多量の抗体を含んだ初乳を分泌します。これを哺乳豚が十分に飲むことで、哺乳豚の口から侵入したウイルスが腸管内で中和され、死亡率が低減します。(ワクチン非接種群と接種群の感染後死亡率を比較した感染実験では、死亡率が78%→28%に低減しました。)

PED対策に係る消毒薬の適正使用

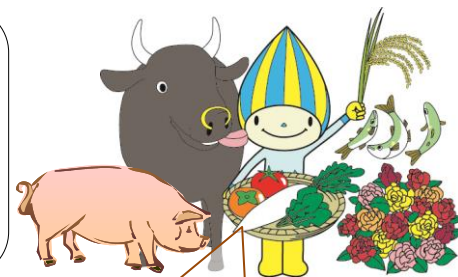
PEDウイルスは一般的に使用される消毒薬で不活化されます。

実際の使用に当たっては各製剤の用法・用量に基づき、有機物を除去したのち、正しい濃度に希釈して使用してください。

とくに畜産関係施設(家畜市場、と畜場、化製場等)入退場時の消毒を徹底してください。

※また、平成28年度分「定期報告書」の提出をお願いします!

異状を発見したら、すぐに家畜保健衛生所へ連絡してください。
※平日時間外(午前8時30分～午後5時15分以外)や休日の電話に対しては、
「電話交換業務が終了しています。」に続く、「**お急ぎの場合は、そのまま「1番」**」をダイヤル願います。」の案内メッセージに従って対応をお願いします。



メッセージは、最後まで聞いてね!

飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 FAX32-9019